



シラバス参照

タイトル「**2016年度 経済学部シラバス**」、フォルダ「**2016年度 経済学部シラバス**」
シラバスの詳細は以下となります。

エラーメッセージ

- シラバスを指定してください。



科目名	経営史			
担当教員	上村 雅洋			
対象学年		クラス	E1	
講義室		開講学期	後期	
曜日・時限	月4,木1	単位区分		
授業形態	講義	単位数	4	
準備事項				
備考	標準履修年次 1年次			
科目名 (英語表記)	Business History			
授業の概要・ねらい	<p>経営史は、企業経営の歴史的な発展過程を研究します。経営史的なものの見方・考え方について理解を深めるため、まず経営史の学問的発展過程をたどることにします。その上で日本の企業経営の特質をその歴史的発展過程から明らかにしようと思います。特に、日本の企業経営の原点であり、経営上の基本的問題が網羅的に見られる江戸時代の企業経営の特質を中心に追究します。さらに、個別企業の経営発展を企業家の経営革新に焦点をあて、時代背景を踏まえて分析を進めます。ポイントを記したレジュメプリントを配布しながら、それに沿って授業を進めます。事情により、少し内容が変わるかも知れません。質問や自主レポートも歓迎します。</p>			
授業計画	おおむね以下のような内容で授業を行います。授業の進行状況により、多少ずれて異なることがあります。			
	回	内容	回	内容
	1	講義の内容 (ガイダンス)	16	月桂冠と大倉恒吉II (大倉恒吉商店の発展、社会的条件)
	2	経営史学の誕生	17	月桂冠と大倉恒吉III (東京積、様式簿記の採用、灘への進出、技術改良、防腐剤なし清酒)
	3	経営史と企業者史	18	月桂冠と大倉恒吉IV (流通革新、広告活動、その後の展開)
	4	チャンドラーの経営史	19	トヨタと豊田喜一郎I (豊田一族、豊田佐吉と織機生産)
	5	江戸時代の企業形態I (個人企業から共同企業へ、三井家の場合)	20	トヨタと豊田喜一郎II (戦前の自動車産業、豊田の自動車産業への参入)
	6	江戸時代の企業形態 (鴻池家の場合、中井家の場合)	21	トヨタと豊田喜一郎III (参入への準備、車種の選定と試作車の製作)
	7	江戸時代の経営戦略	22	トヨタと豊田喜一郎IV (構想の変更、拳母工場の設立、戦後への継承)
	8	江戸時代の経営組織I (三井家の経営組織)	23	松下電器産業と松下幸之助I (奉公への道と大阪電燈会社)
9	江戸時代の経営組織II (住友家の経営組織)	24	松下電器産業と松下幸之助II (独立創業へ、大開町の工場、自転車用ランプ、ラジオ製造、門真への移転)	

	10	江戸時代の経営管理Ⅰ（経営委任と支店管理、合議制、家制度の活用）	25	松下電器産業と松下幸之助Ⅲ（戦前期の事業展開、戦後のスタート、フィリップス社との提携）
	11	江戸時代の経営管理Ⅱ（家業の維持と責任制、多角化）	26	松下電器産業と松下幸之助Ⅳ（テレビ生産、販売体制、熱海会談、現場への復帰）
	12	江戸時代の雇用形態Ⅰ（店員の供給源と出仕年齢、在所登り制度、退職理由）	27	松下電器産業と松下幸之助Ⅴ（幸之助の経営理念）
	13	江戸時代の雇用形態Ⅱ（勤続年数、昇給、雇用形態の変化）	28	ホンダと本田宗一郎Ⅰ（生い立ち、アート商会、戦後の出発、藤沢武夫との出会い）
	14	江戸時代の帳合法（和式複式簿記、会計報告システム）	29	ホンダと本田宗一郎Ⅱ（マン島レース、四輪車への進出、社長としての決断）
	15	月桂冠と大倉恒吉Ⅰ（伏見酒造業と大倉家、明治初期の大倉酒造、恒吉の財源）	30	ホンダと本田宗一郎Ⅲ（CVCCエンジンの開発、引き際） 補足および総括
到達目標	企業経営が持つ経営上のさまざまな問題に関心をもち、それを歴史的に把握する。具体的には、経営史の学問的特徴を簡単に説明できること。江戸時代の経営システムを現代のそれと比較して理解できること。企業家の革新性を指摘できること。			
成績評価の方法	評価は、原則として定期試験（持込み不可）の点数で判断します(100%)。詳しくは、第1回目のガイダンスで説明します。			
教科書	なし。毎回授業中にポイントを記したレジュメプリントを配布します。			
参考書・参考文献	最初の授業で文献リストを配布し、その都度指示します。			
履修上の注意・メッセージ	授業中の小テストや自主レポートでは、質問・意見などを書いてもらうことにしていますが、授業終了後のさまざまな質問なども歓迎します。 第1回目の授業で講義内容についてのガイダンスを行いますので、受講希望者は、必ず出席してください。			
履修する上で必要な事項	毎回、積極的に授業に参加すること。レポートなども必要に応じて提出すること。定期試験には、十分な準備をして臨むこと。			
受講を推奨する関連科目	日本経済史、経済史概論などの歴史系科目も受講してください。			
授業時間外学習についての指示	前回の授業内容を受けて、次の授業を行いますので、事前に復習をして置いて下さい。配付プリントに沿って準備学習もしてください。自主レポートの作成や授業の重要点をまとめたり、疑問点を調べるなどの自主学習が必要です。			
その他連絡事項				

